

市民アンケート調査結果

①調査概要

【調査の目的】	市民の日常生活の移動手段や公共交通に関する意見等を把握するため、無作為抽出による市民アンケート調査を実施し、市民の移動ニーズや公共交通に対する改善要望等を整理する。
【調査対象】	住民基本台帳から無作為で 20 歳以上の市民 2,000 人を抽出
【調査方法】	郵送による配布、郵送回収または WEB 回答（無記名）
【調査期間】	令和 5 年 11 月 13 日（月）～11 月 27 日（月）
【配布・回収数(回収率)】	配布 2,000 通、回収 923 通（回収率 46.2%）

②アンケート回収状況

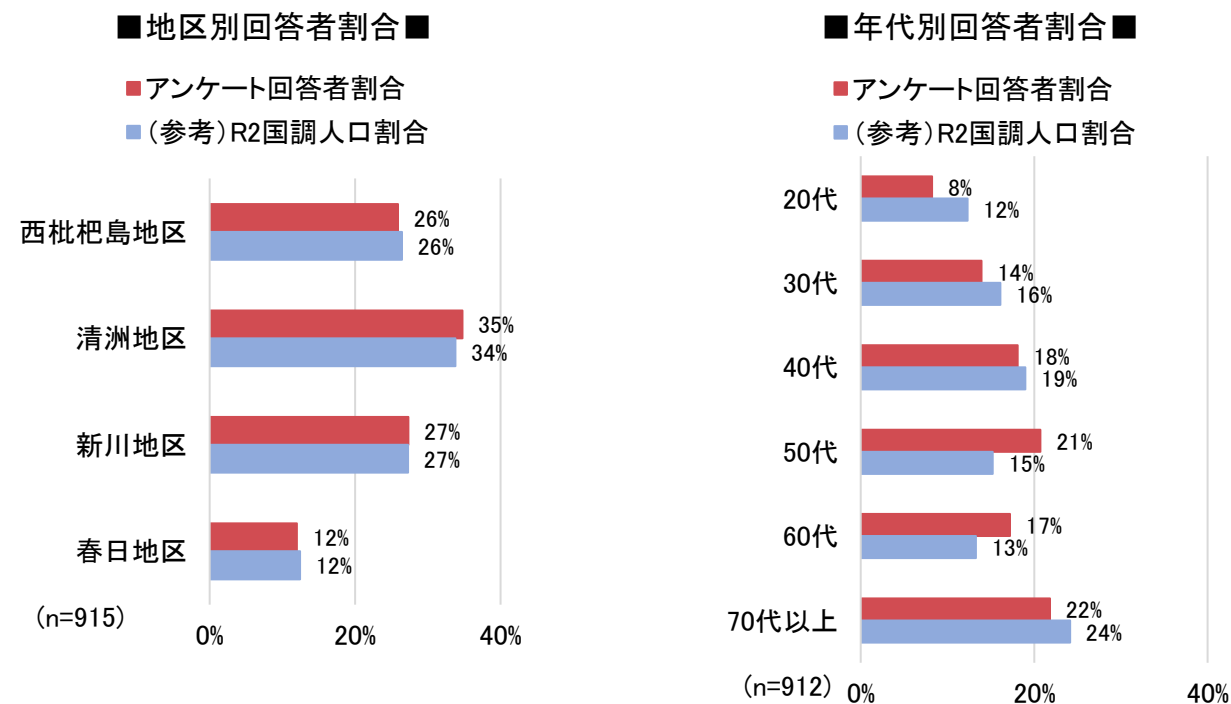
【地区別回答者割合】	<ul style="list-style-type: none"> ・「清洲地区」が 35%と最も多く、次いで「新川地区」が 27%、「西枇杷島地区」が 26%となっている。 ・地区別の回答者割合は、地区別の人口割合（R2 国勢調査）と大きな偏りはないと思われる。
【年代別回答者割合】	<ul style="list-style-type: none"> ・「70 代以上」が 22%と最も多く、次いで「50 代」が 21%、「40 代」が 18%となっている。 ・年代別の回答者割合は、年代別の人口割合（R2 国勢調査）と比べると、20 歳代の回答者割合が若干低くなっているものの、大きな偏りはないものと思われる。

令和 2 年度にも同様の調査を行っており、令和 2 年度調査結果を踏まえ、令和 4 年 10 月 1 日付であしがらバスのルート・ダイヤを改正した。
 令和 2 年度調査：◇調査対象：住民基本台帳から無作為で 20 歳以上の市民 2,000 人を抽出
 ◇調査方法：郵送による配布・回収（無記名）
 ◇調査期間：令和 2 年 11 月 16 日（月）～12 月 7 日（月）
 ◇配布数：2,000 通
 ◇回収数：1,151 通（回収率 57.6%）

<標本誤差について>

○本調査における母集団に対する標本誤差は3.2%であった。
 標本誤差が小さいほど、数値の精度はあがることとなり、一般的に標本誤差±5%程度に収められた場合は一定の精度が確保されている結果、標準誤差±10%程度の場合は概ねの傾向を把握できる結果と言われている。

地区名	人口 (M) (20 歳未満除く)	配布数	回収票数 (n)	回収率	誤差率
西枇杷島地区	13,727	525	237	45%	6.3
新川地区	14,152	550	250	45%	6.1
清洲地区	17,532	685	318	46%	5.4
春日地区	6,446	240	110	46%	9.3
計	51,857	2,000	915	46%	3.2



標本誤差とは…

サンプル（抽出）調査の場合に生じる回答結果の誤差を標本誤差といい、下記の計算式にて算出する。
 （信頼率 k は一般的な 95%※の k=1.96、p は最も標本誤差が高くなる p=0.5 として計算している。）
 ※100 回同じ調査を実施した場合、95 回は求められた標本誤差内に収まるという意味
 例えば、ある政策の賛否を問う質問で賛成の比率が 50%であったとき、母集団（市全体）の正しい推定値は、50% ± 誤差率（上表では 3.2%）= 46.8～53.2%の範囲に信頼度 95%の確率で収まる、と解釈される。

$$(\text{標本誤差}) = k \sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

M：母集団
 n：有効回答数
 k：信頼率による定数(※)
 p：回答比率

※一般的に信頼率95%とすることが多く、その場合、k = 1.96となる。

③市民アンケート調査結果の概要

() : 報告書の該当頁を示している。

1) 通勤・通学目的の移動

【主な移動(P16)】

●通勤通学においては「名古屋市」や「居住地区内」「居住地区と隣接している地区」への移動が多い

主な通勤通学先：名古屋市、清須市内（西枇杷島・清洲）

市内の通勤通学先への移動が多い地区：通勤通学先と同じ地区や隣接地区

【駅の乗車人数(P18)】

●主にJR「清洲駅」「枇杷島駅」、名鉄「新清洲駅」「須ヶ口駅」での乗車が多く、「居住地区内」「居住地区と隣接している地区」にある駅を利用している

乗車人数の多い駅：JR「清洲駅」「枇杷島駅」、名鉄「新清洲駅」「須ヶ口駅」

乗車駅の居住地区内訳：乗車駅と同じ地区や隣接地区

【移動手段(P17)】

●自家用車の利用が半数を占め、公共交通の利用は約4割(37%)となっており、市内移動は自動車・バイク利用、名古屋市への移動は公共交通利用が多い

主な移動手段：「自家用車（自ら運転）」「徒歩」「自転車」「名鉄線」

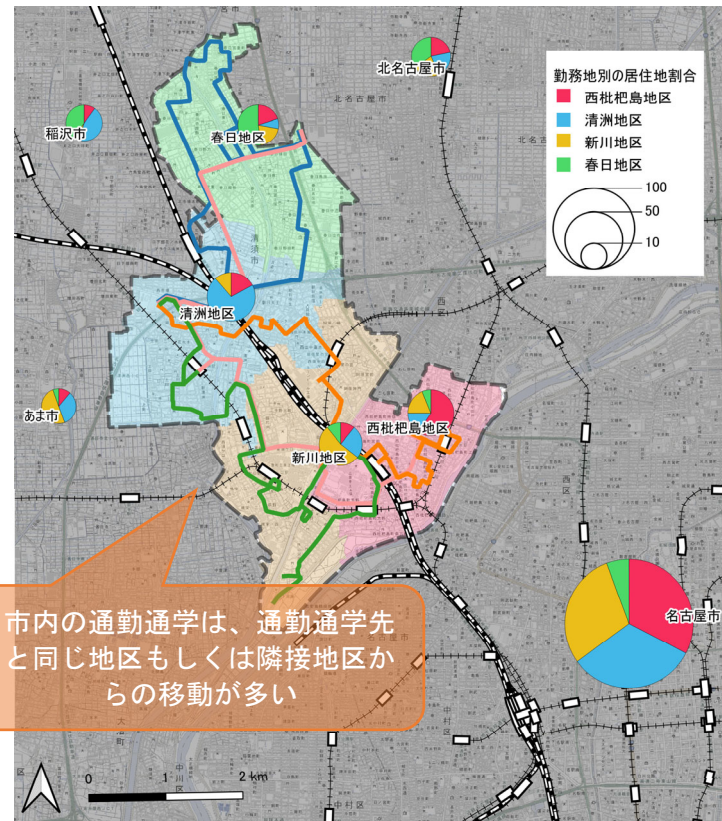
自家用車の利用状況：家族送迎を含む自家用車利用が54%、市内移動では「自動車・バイク」利用が58%
公共交通の利用状況：鉄道・バス・タクシー利用の合計が37%、名古屋市への移動は「公共交通」利用が59%

【公共交通を利用しない理由(P20)】

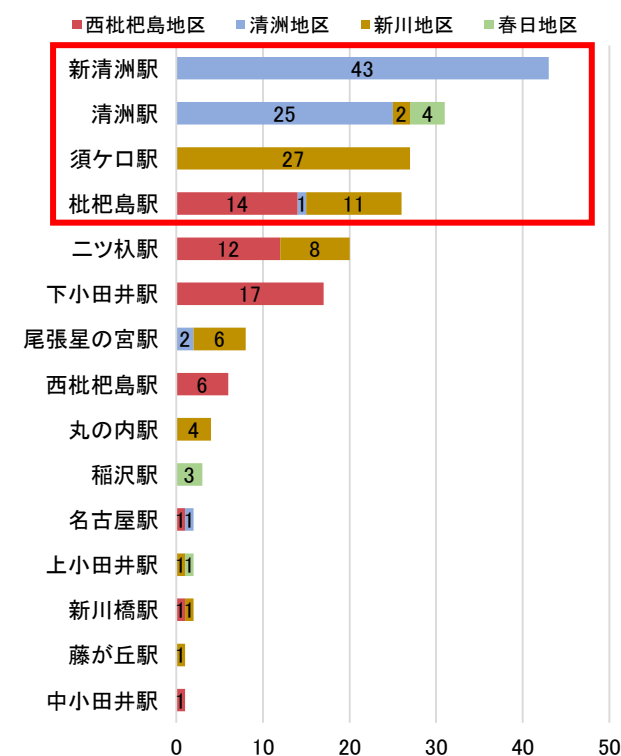
●主に「目的地に行けない」「移動時間がかかりすぎる」「駅・バス停が近くにない」との理由が多く、改善された場合において公共交通を利用したい市民は45%となっており、半数以上は利用したくないと回答している

公共交通を利用しない理由：「目的地に行けない」「移動時間がかかりすぎる」「駅・バス停が近くにない」
改善された場合の公共交通の利用意向：利用したい45%、利用したくない55%

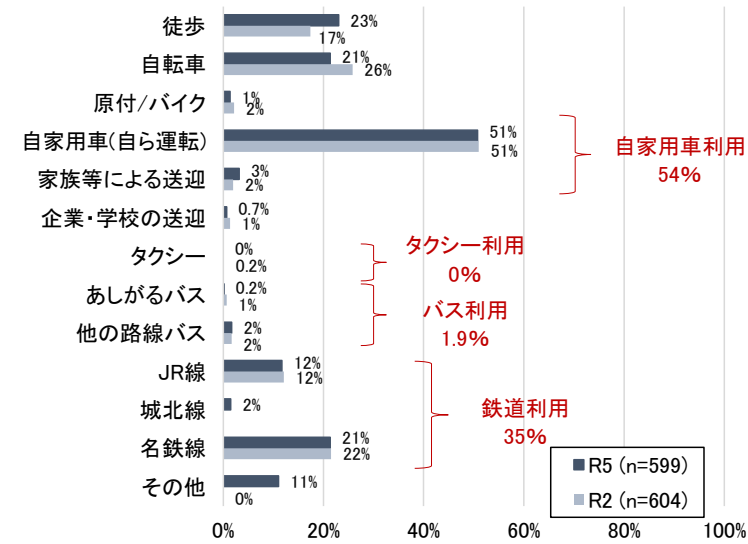
【通勤・通学先別の居住地割合】



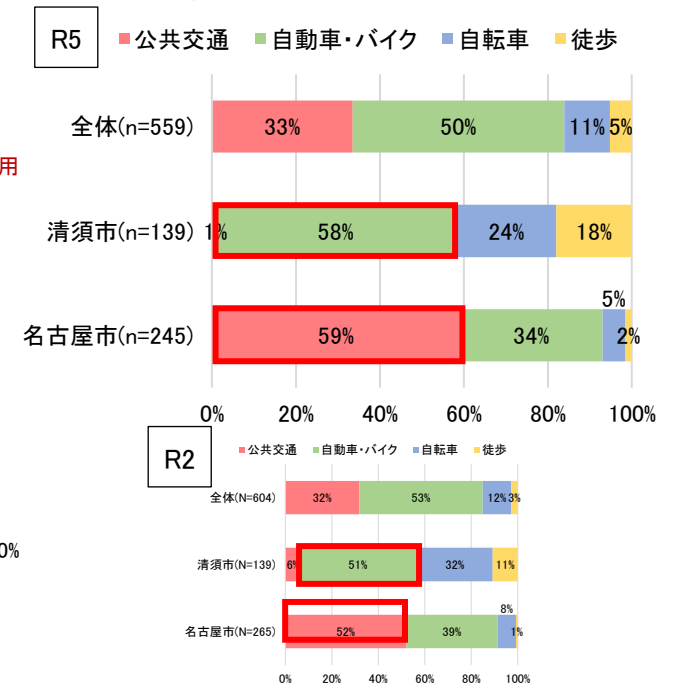
【鉄道駅乗車回答人数（居住地区内訳）】



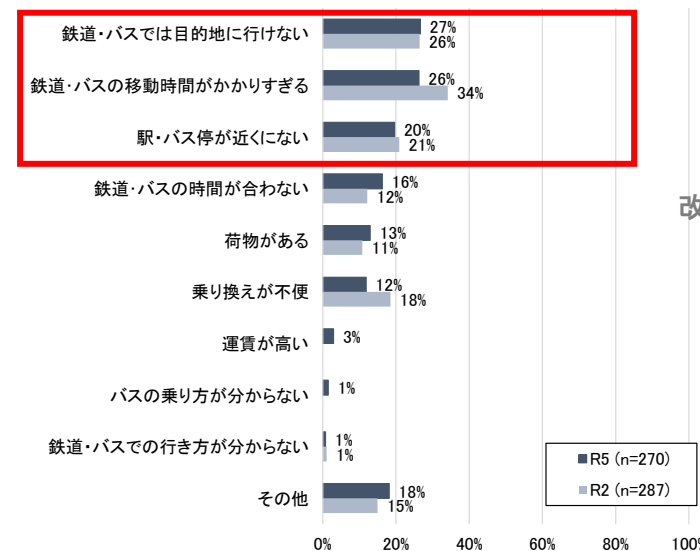
【移動手段（通勤時）】



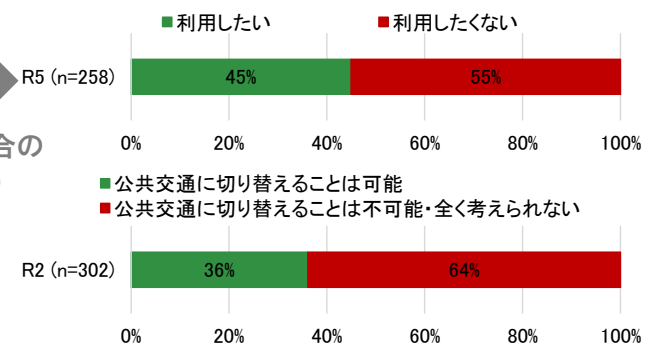
【代表交通手段の内訳】



【公共交通を利用しない理由】



改善された場合の公共交通の利用意向



【OD表（居住地⇒勤務地）】

居住地\通勤先	清須市内					県内市外										総計
	西枇杷島地区	清洲地区	新川地区	春日地区	市内不明	名古屋市	一宮市	北名古屋市	稲沢市	あま市	小牧市	その他	岐阜県	三重県	その他の県	
西枇杷島地区	19	6	3	5	3	81	2	5	2	2	6	10	2	1	0	147
清洲地区	5	25	7	2	9	80	16	5	9	6	4	25	4	4	1	202
新川地区	6	4	15	5	8	73	3	5	1	9	2	20	3	0	0	154
春日地区	2	0	3	13	0	14	4	8	8	1	1	7	0	0	0	61
総計	32	35	28	25	20	248	25	23	20	18	13	62	9	5	1	564

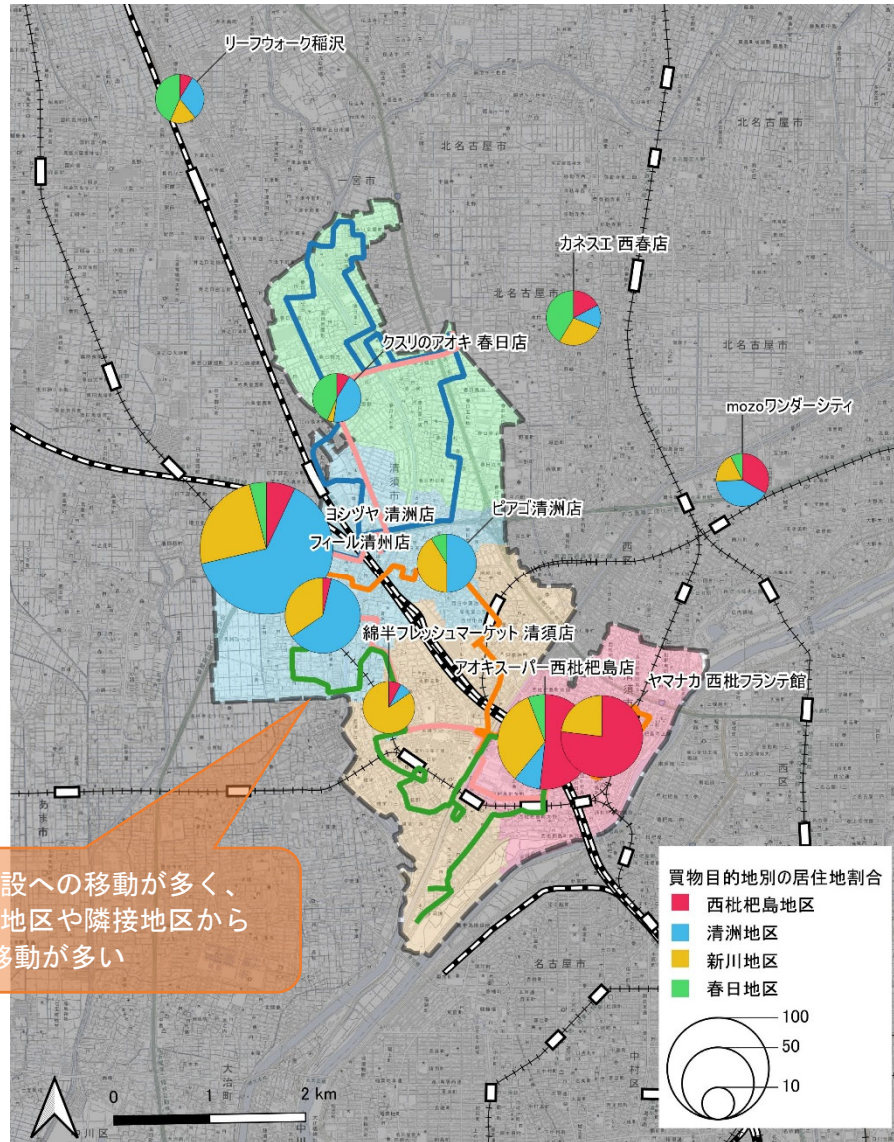
清須市内計 140

2) 買物目的の移動

【主な移動(P22)】

- 主な買物先は「ヨシヅヤ清洲店」「アオキスーパー西枇杷島店」「ヤマナカ西枇フランテ館」であり、買物先と同じ地区もしくは隣接地区からの移動が多い
- 主な買物先：「ヨシヅヤ清洲店」「アオキスーパー西枇杷島店」「ヤマナカ西枇フランテ館」
- 市内の買物先への移動が多い地区：買物先と同じ居住区内もしくは隣接地区

【買物目的地別の居住地割合】



※総計が10件以上の目的地を示す

【目的地ランキング (買物・回答数10件以上)】

目的地	回答数(件)	代表交通手段			
		公共交通	自動車・バイク	自転車	徒歩
ヨシヅヤ 清洲店	171	11	139	15	5
アオキスーパー西枇杷島店	87	4	61	13	8
ヤマナカ 西枇フランテ館	65	2	46	12	5
フィール清洲店	56	2	44	7	2
ピアゴ清洲店	34	3	24	3	3
カネスエ 西春店	30	0	30	0	0
mozoワンダーシティ	27	0	27	0	0
綿半フレッシュマーケット 清洲店	26	2	22	2	0
リーフウォーク稲沢	23	0	22	1	0
クスリのアオキ 春日店	23	0	22	1	0

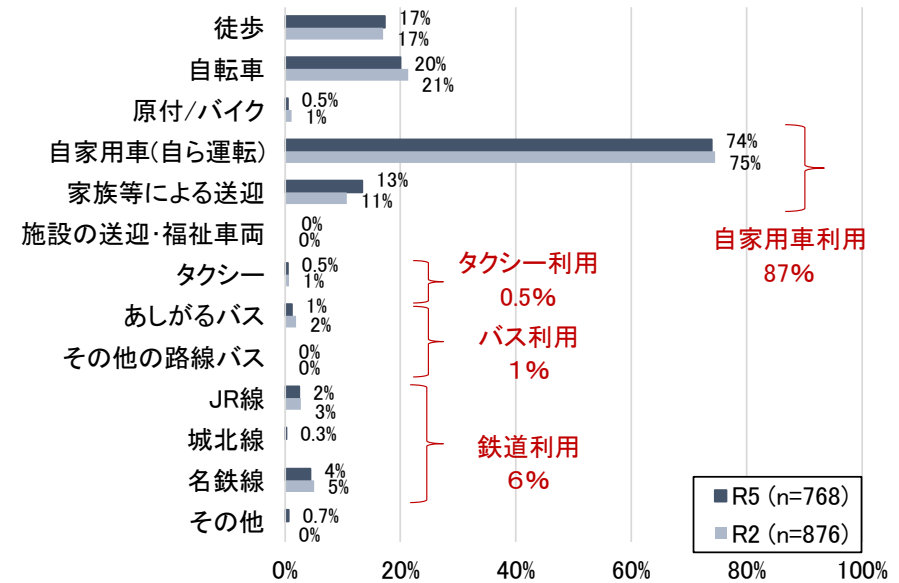
【移動手段(P23)】

- 自家用車の利用が約9割を占め、公共交通の利用は約1割(7%)と低い
- 主な移動手段：「自家用車(自ら運転)」「自転車」「徒歩」
- 自家用車の利用状況：家族送迎を含む自家用車利用が87%
- 公共交通の利用状況：「鉄道利用」と「バス利用」と「タクシー利用」の合計が8%

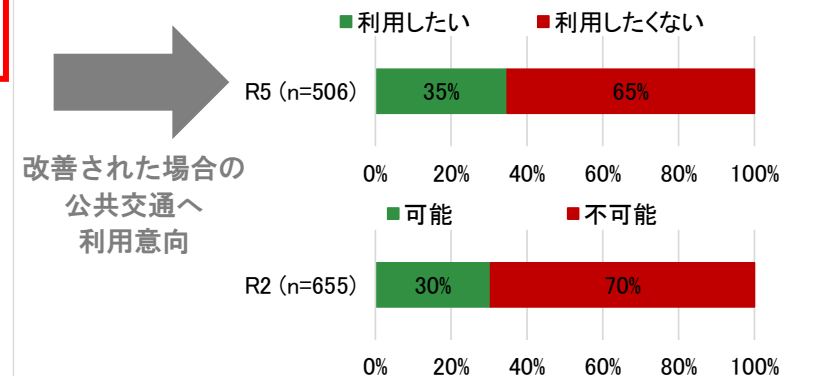
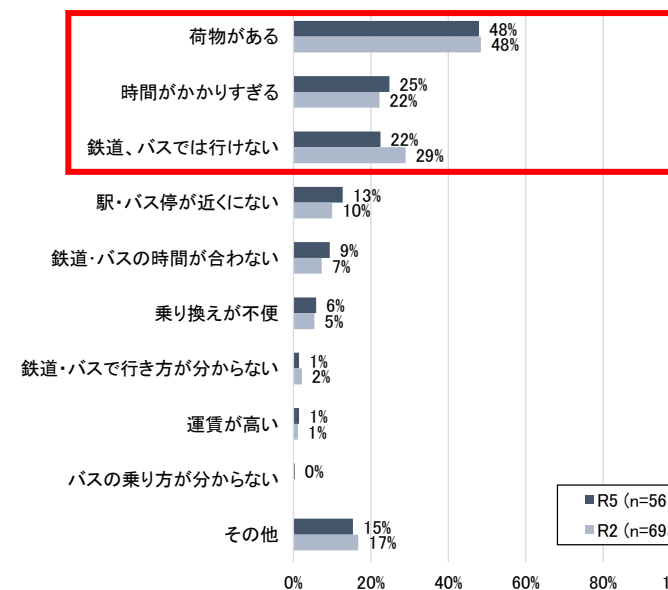
【公共交通を利用しない理由(P25)】

- 主に「荷物がある」「時間がかかりすぎる」「鉄道、バスでは行けない」との理由が多く、改善された場合において公共交通を利用したい市民は約4割となっており、半数以上は利用したくないと回答している
- 公共交通を利用しない理由：「荷物がある」「時間がかかりすぎる」「鉄道、バスでは行けない」
- 改善された場合の公共交通の利用意向：利用したい35%、利用したくない65%

【移動手段(買物時)】



【公共交通を利用しない理由】

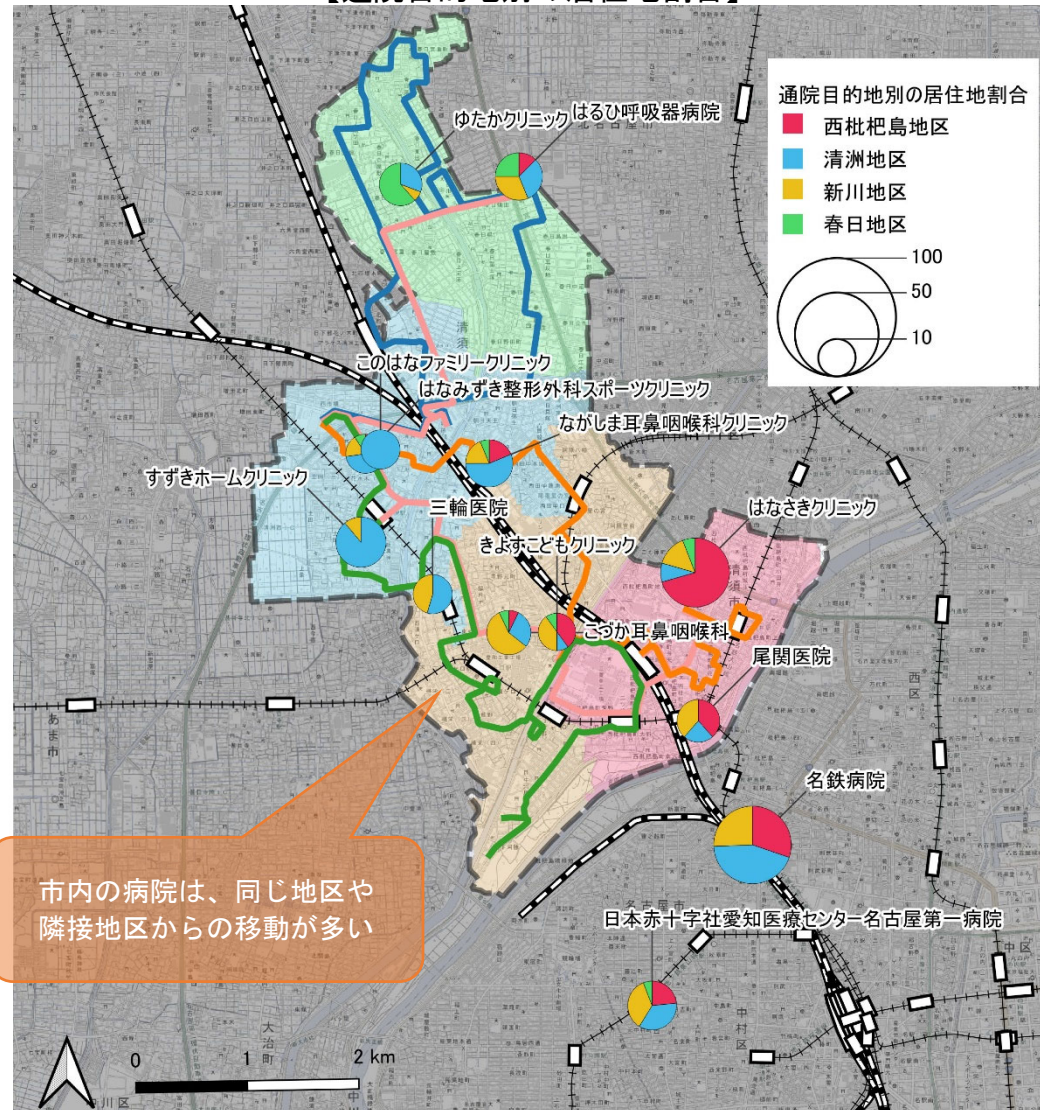


3) 通院目的の移動

【主な移動(P26)】

- 主な通院先は「名鉄病院」「はなさきクリニック」であり、市外の病院は人口の多い地区からの移動、市内の病院は同じ地区内や隣接地区からの移動が多い
- 主な通院先：「名鉄病院」「はなさきクリニック」
- 市内通院先への移動が多い地区：通院先と同じ居住区内もしくは隣接地区

【通院目的地別の居住地割合】



市内の病院は、同じ地区や隣接地区からの移動が多い

※総計が10件以上の目的地を示す

【目的地ランキング（通院・回答数10件以上）】

目的地	回答数(件)	代表交通手段			
		公共交通	自動車・バイク	自転車	徒歩
名鉄病院	43	26	15	2	0
はなさきクリニック	34	0	31	1	2
すずきホームクリニック	18	2	6	4	5
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	17	7	9	1	0
ながしま耳鼻咽喉科クリニック	16	0	16	0	0
はるひ呼吸器病院	16	3	12	1	0
こづか耳鼻咽喉科	14	0	10	3	1
ゆたかクリニック	14	0	13	0	1
尾関医院	13	2	6	1	3
三輪医院	11	0	9	1	1
はなみずき整形外科スポーツクリニック	11	0	8	1	2
このはなファミリークリニック	11	0	5	4	1
きよすこどもクリニック	10	0	10	0	0

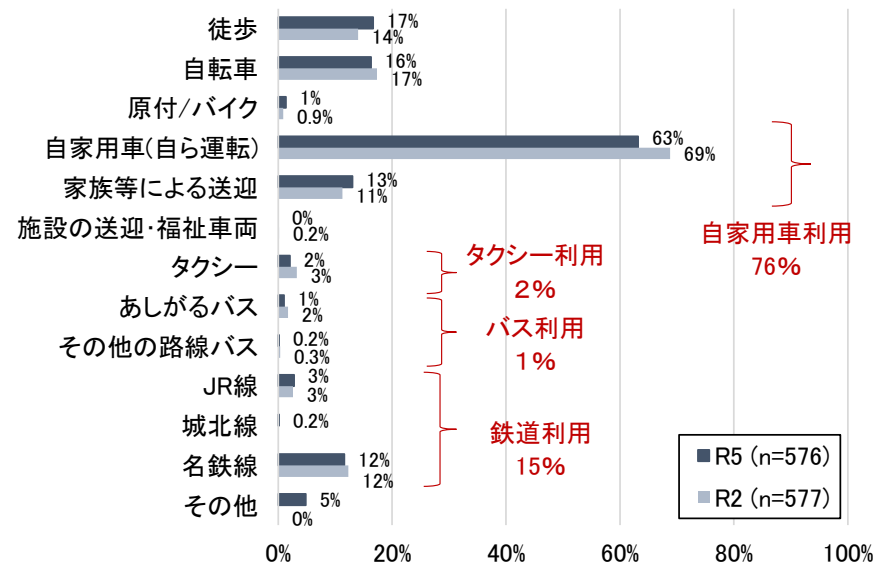
【移動手段(P27)】

- 自家用車の利用が約8割を占め、公共交通の利用は約2割(16%)となっており、特に名鉄病院への公共交通利用が高い
- 主な移動手段：「自家用車（自ら運転）」「徒歩」「自転車」
- 自家用車の利用状況：家族送迎を含む自家用車利用が76%
- 公共交通の利用状況：鉄道・バス・タクシー利用の合計が18%（名鉄病院への公共交通利用：26/43件）

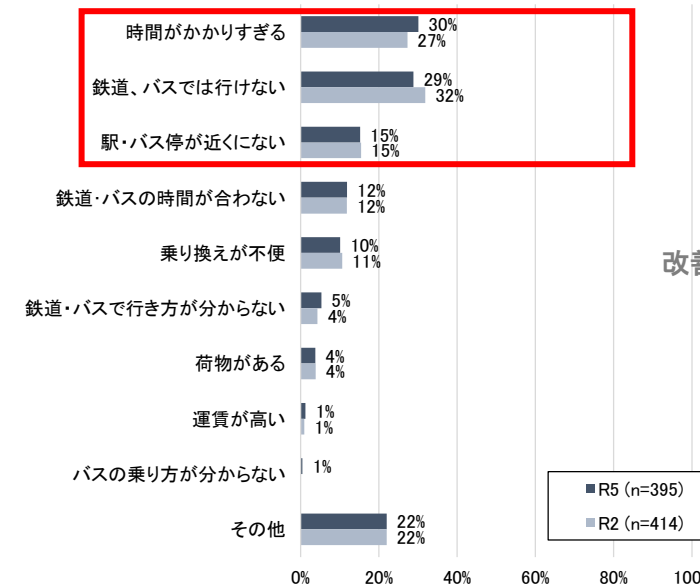
【公共交通を利用しない理由(P29)】

- 主に「時間がかかりすぎる」「鉄道、バスでは行けない」「駅・バス停が近くにない」との理由が多く、改善された場合において公共交通を利用したい市民は約4割となっており、半数以上は利用したくないと回答している
- 公共交通を利用しない理由：「時間がかかりすぎる」「鉄道、バスでは行けない」「駅・バス停が近くにない」
- 改善された場合の公共交通の利用意向：利用したい42%、利用したくない58%

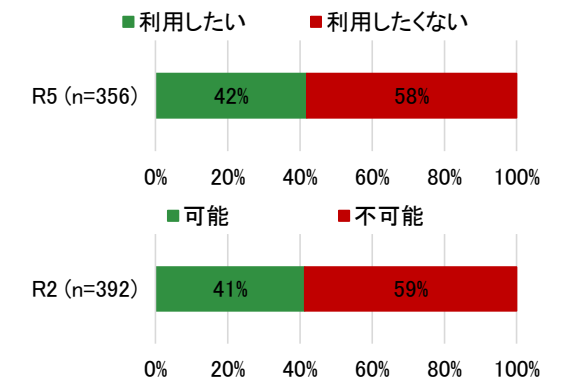
【移動手段（通院時）】



【公共交通を利用しない理由】



改善された場合の公共交通の利用意向



④市内を通る公共交通について

【利用頻度(P34)】

- JR線、名鉄線を月1回以上利用する割合は3~4割程度を占める一方、あしがるバスは1割未満と低い
- 令和2年と比較すると、JR線、名鉄線を月1回以上利用する割合は8ポイント増加している
- 月1回以上利用する割合：「JR線」が27%、「城北線」が6%、「名鉄線」が41%、「あしがるバス」が6%、「タクシー」が7%、「自家用車（自ら運転）」が86%

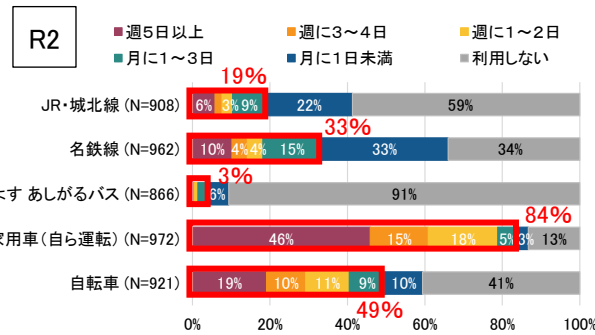
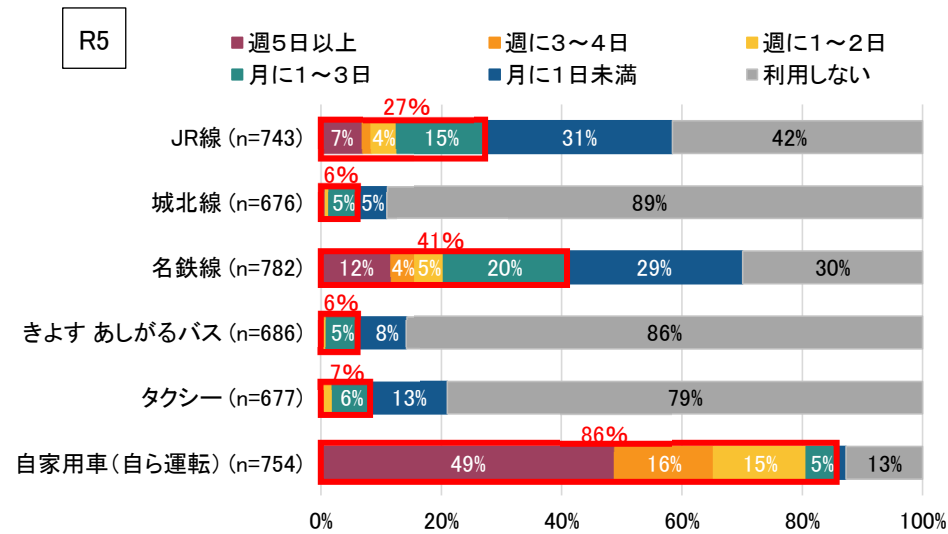
【満足度(P37)】

- 「JR線」「名鉄線」の満足度は高く、「城北線」「あしがるバス」「タクシー」の満足度は低い
- 令和2年と比較すると、「あしがるバス」の満足度は、「満足」「やや満足」の合計が少なくなっている。
- 利用者が「満足」と感じる割合（「満足」＋「やや満足」の合計）：
「JR」が35%、「城北線」が12%、「名鉄線」が39%、「あしがるバス」が10%、「タクシー」が13%
- 利用者が「不満」と感じる割合（「不満」＋「やや不満」の合計）：
「JR」が16%、「城北線」が44%、「名鉄線」が16%、「あしがるバス」が45%、「タクシー」が29%

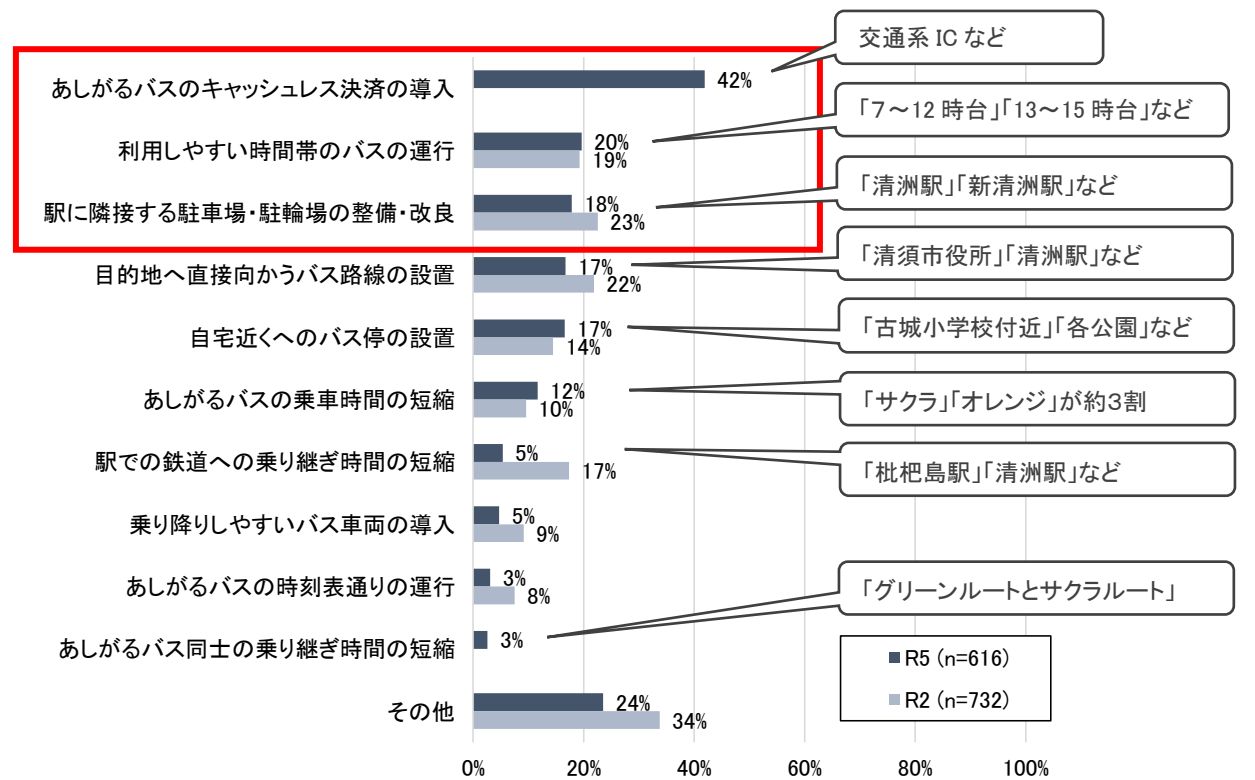
【改善事項(P39)】

- 主に「あしがるバスのキャッシュレス決済の導入」「利用しやすい時間帯のバスの運行」「駅に隣接する駐車場・駐輪場の整備・改良」との理由が多い
- 改善すべき事項：「あしがるバスのキャッシュレス決済の導入」「利用しやすい時間帯のバスの運行」「駅に隣接する駐車場・駐輪場の整備・改良」
- 改善された場合の公共交通の利用意向：利用したい81%、利用したくない19%

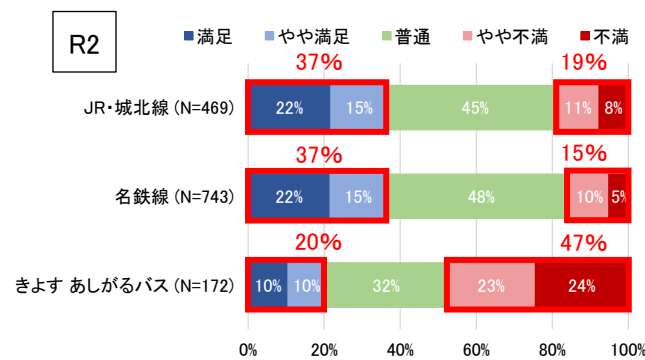
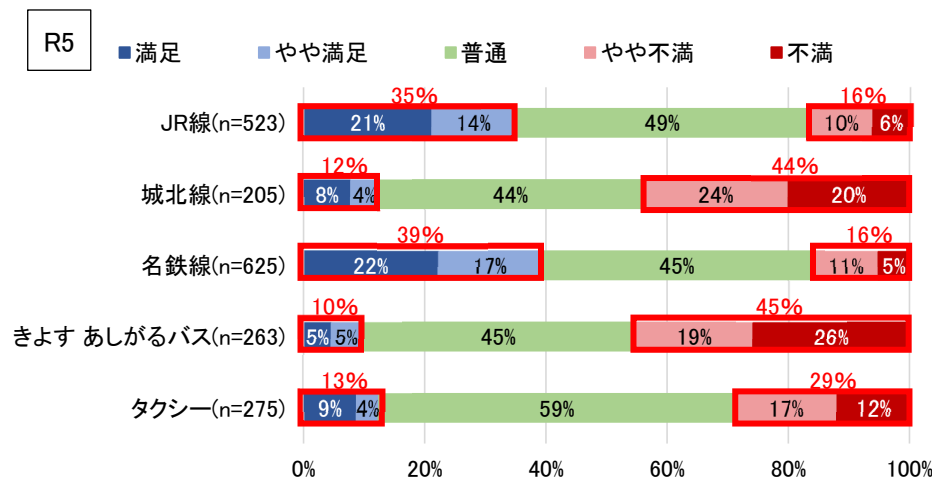
■利用頻度■



■改善事項■



■利用している方の満足度■



※「使わないのでわからない」の回答を除いて集計

⑤あしがるバスの利便性の改善度、オンデマンド交通等について

【あしがるバスの利便性の改善度(P44)】

- 「あしがるバスや当該区間を利用しないためわからない」が83%と最も多く、次いで「変わらない」が14%
- 「悪化した」主な理由としては、「利用していたバス停がなくなった」「ダイヤ変更により不便になった」など
ルート・ダイヤ改正による利便性の改善度：「あしがるバスや当該区間を利用しないためわからない」が83%、「変わらない」が14%、「悪化した」が2%、「改善した」が1%

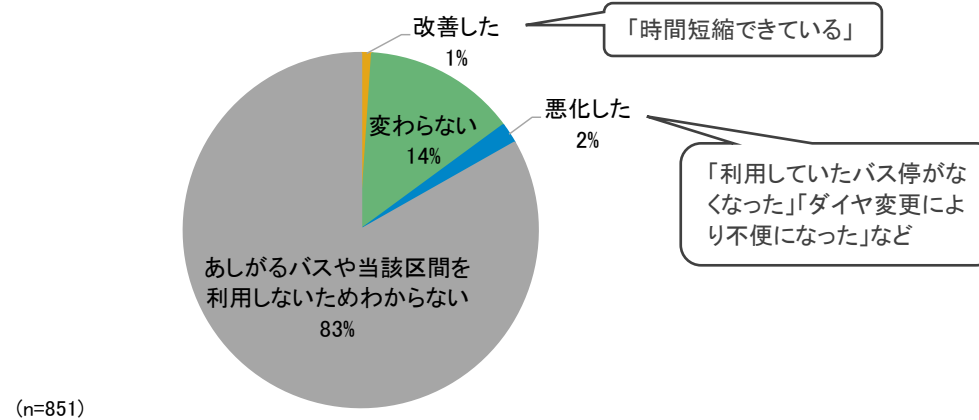
【路線バスとオンデマンド交通の比較(P46-49)】

- 全ての項目において、半数以上が路線バス(定時定路線)のほうが「利用する・利用しやすい」と回答
路線バス・オンデマンド交通どちらが利用する・利用しやすいか：
 - <便数・経路> 「決まった便数」が50%、「おおむね希望の時間」が50% <予約の有無> 「不要」が62%、「必要」が38%
 - <所要時間> 「決まっている」が66%、「予約に応じる」が34% <運賃> 「100円」が77%、「バスとタクシーの間」が23%

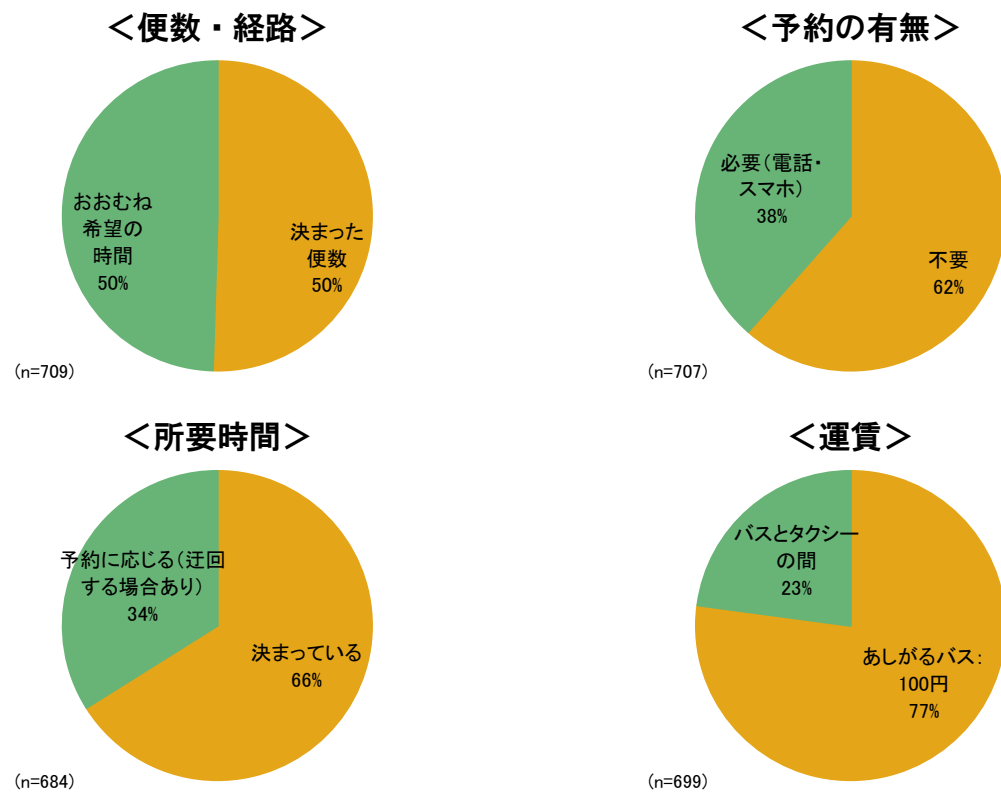
【公共交通に対する意見・感想(自由回答)(P50)】

- 鉄道について、駅周辺の環境や駅施設の改善等が望まれている
鉄道に関する主な意見：「駅施設・バリアフリー」「駐車場・駐輪場・駅周辺」「鉄道の本数・ダイヤ」
- あしがるバスについて、運行ルート・運行本数の改善やあしがるバスの維持・充実などが望まれている
あしがるバスに関する主な意見：「バスの運行ルート」「バスの運行本数」「あしがるバスの維持・充実」

■あしがるバスの利便性の改善度■



■路線バスとオンデマンド交通の比較■



■公共交通に対する意見・感想(自由回答)■

回答	回答数(件)
A.鉄道に関する意見	
① 駅施設・バリアフリー	17
② 駐車場・駐輪場・駅周辺	17
③ 鉄道の本数・ダイヤ	9
④ 遅延対策・定時性向上	2
⑤ タクシーの常駐	2
⑥ 城北線の存続	1
B.あしがるバスに関する意見	
① バスの運行ルート	50
■ 自宅付近	14
■ 市外への乗り入れ	11
■ 見直し・廃止	9
■ 駅・主要施設	8
■ 逆ルート	4
■ 商業施設・病院等	3
■ 他路線との接続	1
② バスの運行本数	41
■ 本数の増便	31
■ 時間帯の見直し	10
③ あしがるバスの維持・充実	33
④ デマンドタクシーの推進・活用	20
⑤ 充実している・満足・お褒め	12
⑥ バスのわかりやすさ・情報提供	12
⑦ バス停の周辺環境	6
⑧ バスの車両・バリアフリー化	6
⑨ バスの接遇・マナー	6
⑩ バスの運行コスト	5
⑪ バスの運賃	3
⑫ バスの利用促進(イベント・キャンペーン等)	2
⑬ バスに関するその他の意見	3
C.公共交通全般に関する意見	
① 公共交通の維持・充実	37
② 公共交通の運賃	8
③ 充実している・満足・お褒め	2
④ バリアフリー化	1
⑤ 公共交通の利用促進(イベント・キャンペーン)	1
⑥ キャッシュレス化	1
⑦ 公共交通に関するその他の意見	4
D.その他の意見	
① 自転車に関する意見	3
② その他の意見	6

⑥市民アンケート調査結果のまとめ

1) 目的別移動の特徴

目的	主な移動	移動手段	公共交通を利用しない理由
通勤・通学	・通勤通学においては「名古屋市」や「居住地区内」「居住地区と隣接している地区」への移動が多い	・自家用車の利用が半数を占め、公共交通の利用は約4割となっており、市内移動は自動車・バイク利用、名古屋市への移動は公共交通利用が多い ・鉄道利用について、主にJR「枇杷島駅」「清洲駅」、名鉄「新清洲駅」「須ヶ口駅」での乗車が多く、「居住地区内」「居住地区と隣接している地区」にある駅を利用している	・主に「目的地に行けない」「移動時間がかかりすぎる」「駅・バス停が近くにない」との理由が多い ・改善された場合に公共交通を利用したい市民は45%と、半数以上は利用したくないと回答
買物	・主な買物先は「ヨシヅヤ清洲店」「アオキスーパー西枇杷島店」「ヤマナカ西枇フランチ館」であり、買物先と同じ地区もしくは隣接地区からの移動が多い	・自家用車の利用が約9割を占め、公共交通の利用は約1割と低い	・主に「荷物がある」「時間がかかりすぎる」「鉄道・バスでは行けない」との理由が多い ・改善された場合に公共交通を利用したい市民は約4割と、半数以上は利用したくないと回答
通院	・主な通院先は「名鉄病院」「はなさきクリニック」であり、市外の病院は人口の多い地区からの移動、市内の病院は同じ地区内や隣接地区からの移動が多い	・自家用車の利用が8割を占め、公共交通の利用は約2割となっており、特に名鉄病院への公共交通の利用が高い	・主に「時間がかかりすぎる」「鉄道・バスでは行けない」「駅・バス停が近くにない」との理由が多い ・改善された場合に公共交通を利用したい市民は約4割と、半数以上は利用したくないと回答

2) 公共交通モード別の特徴

モード		利用頻度・満足度及び主なニーズ・改善点				各公共交通の課題(総括)	
		月1回以上利用する割合		満足度			主なニーズ・改善点
		R2	R5	R2	R5		
鉄道	JR線	19%	27%	満足 37% 不満 19%	満足 35% 不満 16%	<ul style="list-style-type: none"> 駅に隣接する駐車場・駐輪場の整備・改良（清洲駅、新清洲駅など） 駅の整備・改良（清洲駅、新清洲駅など） 	<ul style="list-style-type: none"> JR線や名鉄線を月1回以上利用する割合は回答者の3～4割程度で、令和2年より増加している。 駐車場・駐輪場や駅施設の整備・改良などが求められている
	城北線		6%				
	名鉄線	33%	41%	満足 37% 不満 15%	満足 39% 不満 16%		
タクシー		—	13%	—	満足 13% 不満 29%	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者・子育て世代の利用割引 台数の増加・営業時間の延長 	<ul style="list-style-type: none"> タクシーを月1回以上利用する割合は13%と低く、利用者の満足度も、満足より不満が上回っている。
あしがるバス		3%	6%	満足 20% 不満 47%	満足 10% 不満 45%	<ul style="list-style-type: none"> キャッシュレス決済の導入（交通系ICなど） 利用しやすい時間帯のバスの運行（7～12時台など） 運行ルートの改善・拡大 	<ul style="list-style-type: none"> あしがるバスを月1回以上利用する割合は6%と低く、利用者の満足度も、満足より不満が上回っており、令和2年より満足の割合が減少している。 運行ルート・運行本数の改善やキャッシュレス決済の導入などが求められている

※満足度における「満足」は満足+やや満足、「不満」は不満+やや不満の割合を示す

3) あしがるバスの利便性の改善度、オンデマンド交通等

あしがるバスの利便性の改善度	路線バスとオンデマンド交通の比較	公共交通全般に対する主な意見概要
<ul style="list-style-type: none"> 「利用しないためわからない」や「変わらない」といった意見が多い 「悪化した」主な理由としては、「利用していたバス停がなくなった」「ダイヤ変更により不便になった」など 	<ul style="list-style-type: none"> “便数・経路”“予約の有無”“所要時間”“運賃”の全ての項目において、半数以上が路線バス(定時定路線)のほうが「利用する・利用しやすい」と回答 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道については、駅施設や駅周辺環境の改善や運行本数の見直しなどが、あしがるバスについては、運行ルート・運行本数の改善やバスの維持・充実などが望まれている